

# 水辺の 生物



## スジブトハシリグモ

クモ目キシダグモ科ハシリグモ属

写真提供：新井浩司氏

校閲：谷川明男氏

**体** 長はオスは14~18mm、メスはやや大きく15~20mmで、脚を広げると5~6cmにもなる大型のクモである。背中の中脇に白く目立つ筋があり、その間に黒褐色の太い筋が縦に走ることからスジブト、そして網を張らず獲物を脚と牙で捕まえる徘徊性のクモであることからハシリグモという名がついた。

平地から山地にかけての池沼、水田、河川、湿地など、水辺にいることが多い。成体が現れる時期は6月~9月。水際の草や水中の水草の葉の上などで獲物を待ち構え、主に昆虫を捕らえるがオタマジャクシや小さな魚を捕らえることもある。北海道、本州、九州に分布する。

本種のユニークな特徴は、水面を自由に歩いたり走ったりすることができることだ。水草などを伝わって水中に潜り、長時間潜んでいることもできる。水中での呼吸は、体表面に密に生えている毛の間に空気を貯めて行う。水中では体に付着した気泡が銀色に光って見える。

ところで、このクモはどうして水面で活動できるのだろうか。水面歩行について詳細な観察を行ったクモ研究者・中平清氏(故人)は次のように推論する。水面歩行ができるのは、それぞれの脚の先端に長毛(歩脚毛束ほきやくもうそく)というが密生しており、水面ではその毛を立てて表面張力を増して沈まないようにしているかららしい。顕微鏡下では、脚の基部をピンセットで挟むとこの歩脚毛束が立つことが観察されている。そして試しに、表面張力を弱める働きのある中性洗剤をクモのいる水面にたらしたところ、クモは沈んでしまったという。また、スジブトハシリグモは母グモが上顎で運搬して守る卵のう(袋)の中でふ化し、一度脱皮して第2齢となってから外界に現れるが、その子グモには歩脚毛束が全くない。それにもかかわらず子グモが水面で自在に行動できるのは、歩脚毛束だけでなく歩脚に分泌される油脂類もかかわるようだ。脚をガソリンで拭ってみたところ、沈んでしまったそうである。

参考文献：中平清著『クモのふるまい』1983年刊、同『続・クモのふるまい』1992年刊  
池田博明編『クモ生理生態事典』WEB版

これまでに紹介した「水辺の生物」のうち主なものを水資源機構ホームページに掲載しています  
(トップページ右側「水辺の生物」をクリック)